

【 結 果 の 概 要 】

I 鳥取県の住みやすさについて

- 鳥取県に対する愛着や誇りは、約7割の人が「感じている」又は「少し感じている」と答えている。
- 今暮らしている地域について、7割弱の人が「住みやすい」と答えている。
- 鳥取県に暮らしていて、豊かな自然環境に恵まれていると思う人は約9割と圧倒的に多く、また5割以上の人が、治安が良い、住民が親切であると答えている。
- 生活するにあたっての公共交通機関の状況について、約5割の人が「整っていない」と思っている。
- 鳥取県での暮らしの幸せの程度について、約9割の人が「普通」から「とても幸せ」と答えている。
- 幸福度の判断で重視することについて、6割以上の人が「自身の健康の状況」「家計の状況」と答えている。

II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

【豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる】

- 農林水産・畜産の担い手育成、環境課題に対する取組に不満を感じている割合が多い。一方で、「農業の活力増進に関する取組」「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」に満足を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「農林水産・畜産の若き担い手育成」「豊かな観光資源を活用した観光誘客」「農業の活力増進」と、農林水産・畜産関係、観光資源活用による誘客の取組が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

【人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む】

- 中山間地域・まちなか振興、人づくりに関する取組に不満を感じている割合が多い。一方で、「感染症に強い地域づくり」「健康寿命の延伸」「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」など、感染症対策、健康、結婚、出産、子育てに関する取組に満足を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」「感染症に強い地域づくり」「地域で子育て世代を支える取組」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

【幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ】

- 「自らの能力を発揮できる働き方の実現をめざす取組」「持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組」「戦略的な産業人材の育成・確保」に不満を感じている割合が多い。一方で、「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」「強靱な防災基盤の構築に向けた取組」「アート・文化による地域づくりへの取組」に満足を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」「持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

【男女共同参画社会づくり】

- 男女に関する役割などについて、8割以上の人が「現実として家事や子育てが女性の役割となっていると思う」、約7割の人が「現実として介護が女性の役割となっていると思う」と答えている。
- 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために行政が行うべき施策について、約6割の人が「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」と答えている。
- 男女共同参画社会を実現するために行政が特に力をいれるべきことについて、5割以上の人が「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実」、約4割の人が「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」と答えている。

【SDGs(持続可能な開発目標)の推進】

- SDGsという言葉・内容について、約7割の人が「聞いたことがある」と答えている。
- SDGsという言葉・内容をどうやって知ったかについて、約8割の人が「テレビ」、約5割の人が「新聞・雑誌」、約3割の人が「インターネット」と答えている。
- SDGsの8つの優先課題のうち、どの課題に関心があるかについて、5割以上の人が「省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会」「平和と安全・安心社会の実現」と答えている。
- SDGsの8つの優先課題のうち、「2030年の鳥取県」に向けて行政が特に力をいれるべき課題について、約5割の人が「省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会」、約4割の人が「平和と安全・安心社会の実現」「生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」と答えている。

Ⅲ 重点施策への関心・認識

(「鳥取県情報技術活用推進計画～Society5.0推進計画～」に基づく取組についての関心度)

【農林水産分野】

- 「自動操舵システム、ドローン等を活用した作業の省力化及びリモコン式自走草刈機、アシストスーツ等を活用した作業の負担軽減」に『関心がある』が5割となっている。

【産業振興・働き方分野】

- 「小規模事業者を含む県内企業のデジタル実装の加速化」「最先端技術活用による革新的実装モデルの創出」に『関心がある』割合が高くなっている。

【観光・文化振興分野】

- 「動画配信サービス等を活用したイベント等の遠隔での体験・鑑賞の推進」「SNS等を用いた多様で魅力ある情報発信の強化」に『関心がある』割合が高くなっている。

【医療・福祉・健康分野】

- 「オンライン技術を活用した遠隔医療等の環境整備」「IoTセンサー等を活用した高齢者等の見守りの効率化・省力化」に『関心がある』割合が高くなっている。

【暮らし分野】

- 「AI、IoTセンサー、ドローン等を活用した公共インフラの維持管理の効率化」「情報通信技術により様々な交通手段を統合し、革新的な移動サービスを提供するMaaSの推進による県民の利便性の向上」「IoT技術を活用した再生可能エネルギーの地域内における需給(地産地消)の推進」に『関心がある』割合が高くなっている。

【防災・減災分野】

- 「衛星画像、IoTセンサーやドローン等を活用した自然災害時の迅速な状況把握と対応の強化」をはじめ、その他の取組も『関心がある』割合が6割以上と全体的に関心度が高くなっている。

【学校教育分野】

- 「サイバー空間において被害者や加害者にならないための情報モラル教育等の推進」「1人1台端末による個別最適な学びと協働的な学びが実現できる環境の整備」に『関心がある』割合が高くなっている。